

犠牲忘れぬ思い後世へ

60受講生 遺族ケア 理解深める

311 伝える／備える
次世代塾

第2期

大学生らが東日本大震災

の出来事に向き合う通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第2期の第10回講座は17日、東松島、石巻両市を視察した。東松島市では津波で家族を失いながら、遺族ケアに取り組む「東松島子どもグリーンサポート」代表理事の菅原節郎さん(68)の講話を聞き、受講生約60人は犠牲を忘れず、未来へ伝えていくことの意義を学んだ。

菅原さんは2011年3

月当時、東松島市議だった。議場で地震に遭遇し同市野蒜にあった自宅に引き返した。全壊流失した自宅跡に受講生を案内した菅原さんは「私の家はここにあった。家には53歳の妻と27歳の長



菅原さんの説明を受けながらグリーンワークを体験する受講生

現在取り組むグリーンケアについても学びを深めた。菅原さんは「避難所運営が一段落すると、公務を優

遺族の心を理解できるのは同じ境遇の自分しかいないと思い、グリーンケアの取り組みを本格化させ、自分も救われた」と明かした。受講生は菅原さんと一緒に折り紙を使ったグリーンワークにも挑戦した。菅原さんは「グリーンケアは心のバランスを取り戻そうという動きを大切に」と話し、「犠牲者は忘れ去られてしまふことがもつともつらいと思う。若い皆さんには震災という悲惨な経験を共有して未来へ伝えてい

採択された国際防災指針「仙台防災枠組」について説明を受けた。

×モ311「伝える／備える」次世代塾を運営する「311次世代塾推進協議会」の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。協議会事務局は河北新報社防災・教育室＝メール jisedai@po.kahoku.co.jp

受講生の声



津波の怖さ実感

大川小を視察し普通の学校や日常が一瞬で無くなる津波の怖さを感じました。いざという時に避難できるかどうかは日々の習慣と信頼関係が大事だと学びました。自分の学びと経験を子どもたちに伝えたい。(仙台市青葉区・宮城教育大4年・井沢萌さん・21歳)



遺族の苦悩知る

家族を失った悲しみを抱えて避難所運営や議員活動を行うのはとても苦しかったと思います。遺族だからこそ寄り添った支援ができると感じました。子どもが安心できる場を提供する大切さも知りました。(仙台市青葉区・東北福祉大3年・小野嘉寿真さん・26歳)



被災地足運んで

遺族は今も震災で犠牲になった家族のことをずっと考えて生活していることを知りました。心のケアの重要性も感じました。被災地を訪ねると報道で知り得ないことを学べます。多くの人に足を運んでほしい。(北上市・東北福祉大2年・浜田彩聖さん・19歳)